

1 学校教育目標 心身ともに逞しく生きる力をもち、豊かな人間性と高い専門性・知性を兼ね備えた、広く社会に貢献する人材を育成する。	2 本年度の重点目標 ①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の工夫・改善 ②資格取得による専門性の深化と希望進路の実現 ③豊かな人間性や高い志を育む教育の推進 ④高校魅力づくりの推進 ⑤教職員の働き方改革の推進 ⑥校舎制による円滑な学校運営
----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A: ほぼ達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分である D: 不十分である
-----	------------------------------------------------------

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の工夫・改善						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	○教職員の資	教科の指導力向上	・学期に1回以上互見授業を実施し、授業の改善を図る。 ・指導力向上のための研修会等へ1回以上参加する。	・授業研究会及び授業参観の意見や感想等を通して、授業の改善に必要な内容を知り、自らの授業に役立てる。 ・研修会等の情報や優れた指導方法の共有を図る。	C	・授業参観(研究授業)や研修会等へは積極的な参加がみられたが、指導方法等の共有はやや不足していた。 ・各教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業実践に取り組んだ。
教育活動	○ICT活用教育	ICTの活用により授業の工夫・改善	・学習用パソコンを「利用する」または「や」や「利用する」生徒の割合を80%以上にする。 ・学習用パソコンを用いて、プレゼンテーションを「できる」または「や」や「できる」生徒の割合を80%以上にする。	・学習用パソコンを利用しやすい環境を整える。 ・学習用パソコンを利用する機会を確保する。 ・学習用パソコンを利用する方法を周知する。	C	・1年時の1学期中に学習用パソコンについて、基本的なことを学び、親しむ活動を取り入れた研修を行うことにより、学習用パソコンを使う習慣を身につけることが必要である。
	●学力向上	基礎学力の定着・促進	・各教科で分野ごとの到達度を設定し、年度末の授業評価アンケート結果において、授業が「よくわかる」「わかる」と回答した生徒の割合を75%以上にする。	・授業の内容や到達度、課題の提出について各教科で情報交換をおこない、教科間の意識の共有を図る。 ・ICT機器を活用してわかりやすい授業を実践する。	A	・年度末の学校評価アンケートで、授業が「よく分かる」「わかる」と回答した生徒が75%であった。しかし、生徒から保護者への伝わりは52%と低かった。 ・各教科担当者が、各教科の特性や単元内容に応じて、ICT機器を活用した授業を行った。

②資格取得による専門性の深化と希望進路の実現						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○資格取得	資格取得による専門性の深化	・1年、2年の会計分野の全検定試験に合格し、合格率70%以上を目指す。 ・1～3年(一部履修)の情報分野の検定試験に合格し、合格率70%以上を目指す。	・毎週の教科会議において、各担当者の指導方法や教科書以外に有効的な教材について研究し、指導の改善に努める。 ・指導方法はもろんであるが、新たな知識や解法などを教職員が学習することで、授業の効率を上げる。	C	・「自分は、資格取得について意欲的に取り組むことができた」の質問に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒は87%いたが、1、2年生の会計分野の合格率は45～50%であった。また、情報分野に合格した生徒は45～50%であり、目標とする70%以上の合格率を達成することが出来なかった。
	○進路指導	進路指導の充実	・各学年の適切な時期に、適切な進路講話や進路啓発ガイダンス(企業説明会を含む)を1回以上実施する。 ・「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」を活用し、自分の将来やキャリア構築についてしっかりと考えさせる。 ・「学ぶ習慣」の定着を図り、能動的な学習を促す。 ・キャリア教育生徒意識調査結果で①「働くことの意義」や②「将来の自分の進路(職業)」について考えることができた」「ある程度できた」を95%以上にする。	・実技試験に向けての指導方法や検定筆記試験対策、教材についての研究を十分に行い、検定合格という目標に向けての教職員の意識の共有を図る。 ・教科会議を通して、実技指導の評価基準をそろえ、指導効率を上げる。 ・1、2年生は各学期初めに進路希望調査を行うとともに進路講話を実施する。 ・1年生は3学期に進路啓発研修を行い、自分の進路と適性について考えさせる。2年生は9月のインターンシップに向けて学期から準備する。また、職業適性検査を行い自分の適性について深く考えさせる。3年生は具体的な進路実現に向けたさまざまな進路ガイダンスを1学期中に集中して実施する。 ・「旭の時間」で学び直しの時間を確保し、基礎学力の定着と自ら学ぶことへの習慣化を図る。	B	・進路指導部でのアンケートでは、「働くことの意義について考えることができた」「1年間を通して将来や進路について考えることができた」「ある程度できた」196.4%の回答であった。 ・「自分は、進路講話や進路啓発ガイダンスにより将来の進路(職業)について深く考えることができた。」「旭の時間」で学び直しの時間を確保し、基礎学力の定着と自ら学ぶことへの習慣化を図る。 ・定期的な進路希望調査、進路講話、進路意識啓発学習活動を通して生徒自身に自らの進路について考える機会を十分に設定することができた。 ・業者模試を複数回実施した結果、家庭学習の習慣化ができていないことが如実に表れていた。朝の「旭の時間」を十分に確保できないこと、各教科からの課題が少ないことが原因であるようだ。

③豊かな人間性や高い志を育む教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●志を高める教育	夢や高い志を持ち、可能性に挑戦する力の育成	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を90%以上にさせる。 ・1年生においては、「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」に参加する。	・全ての教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・1年生においては、「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」を実施し、地域の教育資源や人材等を活用した講演会を実施する。	B	・アンケートで「自分は、授業や学校行事を通して、夢や高い志を持ち可能性に挑戦する力を身に付けることができた」の質問に対し「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒は81%であった。 ・1年生は「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」に積極的に参加した。
	●心の教育	教育相談体制の充実	・2回のSC来校を計画し、生徒や保護者への利用を促し有効に活用する。 ・心理テスト(hyper-QU)を年2回実施し、職員研修を行う。 ・自分を大切に、他人を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成を目指す。	・SCからの助言をもとに担当教諭との共通理解の場を設け、生徒理解に努める。 ・職員研修を実施し、心理テストの結果を有効活用する。 ・各講話及び日常生活全般とおし、自分を大切に他人を大切にすることを心がける。	A	・16回の教育相談を実施し、延べ48件の利用状況であり保護者も含めSCの有効活用につながった。 ・予定していた心理テストや職員研修を実施することができ、生徒理解につながった。 ・各種講演会を通して豊かな心をもつ生徒の育成につながった。
	●いじめの問題への対応	いじめ事案の未然防止及び早期解決、再発防止	・いじめは、絶対に許されない行為であるという意識を100%の生徒が持つようにする。 ・SNSの適切な使用等、100%の生徒にSNS利用時のモラルの向上を図る。	・いじめに関するアンケートを毎月1回以上行い、状況把握に努める。 ・SNSの利用に関するモラルの講演会等を年1回以上行う。	B	・いじめに関するアンケートを毎月行い、状況把握に努めることができた。 ・防犯講話や薬物乱用防止講話において、最近問題となっているSNSの利用に関するトラブルの説明がありモラルの向上に役立つ内容であった。 ・いじめは絶対に許されない行為であるという意識を持つことができたアンケートに、5%が「当てはまらない」「よくわからない」と回答があった。

④高校魅力づくりの推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●魅力と活力ある高校づくり	地域と連携して高校の魅力高める取組の推進	・本年度は地域を知ること重点を置き、1年生全学年全クラスの生徒が鹿島の経済をはじめ、諸問題等を身近なことと考えることが出来る環境を作る。	・校内、校外の人間で構成される協議会を立ち上げ、外部指導者等の選定を行い、年間通して5回程度の講演会を実施する。	B	・1年生3学科の共通事業として進める中で、各学科間での考え方や目標の違いなどから、進め方を調整することが難しかった。しかし、様々な話し合いを重ね、各学科担当職員が努力することでスムーズな運営が出来るようになった。 ・「本校は、この地域になくてはならない学校であると思う」の質問に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒は87%、保護者は94%であった。

⑤教職員の働き方改革の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間外勤務時間の縮減	・時間外勤務時間の月平均を前年同月比において10%縮減する。 ・月曜日と水曜日を定時退勤推進日に設定する。	・共有フォルダを利用し、様式、業務データの共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。 ・会議資料は前もって配付し、報告及び連絡事項は日報に掲載して周知し、会議の時間短縮と効率化に努める。 ・定時退勤推進日については、朝礼等で職員へ周知し、確実な実施を行う。 ・部活動においては、週当たり原則2日以上(平日1日、土日1日)の休養日の実施を徹底する。	C	・時間外勤務時間の月平均は、1月現在で5か月下回ったが、前年同月比10%縮減は1か月であった。 ・推進日の呼びかけと推進を徹底することができなかった。設定により、時間外勤務時間の月平均時間は前年度より減少した。 ・部活動においては、週当たり2日以上休養日の実施は、かなり浸透してきたが、まだまだ十分ではなかった。

⑥校舎制による円滑な学校運営						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	●校舎制による円滑な学校運営の実施	授業の円滑な実施	・教育課程の適切な実施に向け、授業日数や授業実施時数等が不適切とならないように留意する。	・時間割、考査問題、学校評価が適切に行われているかを学期ごとに確認し、把握する。 ・時間割変更等は教員の学舎間移動を考慮して、負担にならないよう配慮し、授業時数の確保と授業の質の向上に努める。 ・学舎や学科を横断した授業研究会、研修等の機会を学期に1度は設け、学校としての一体感を醸成する。	B	・時間割については、先生方の年休・出張に伴い授業が自習にならないように可能な限り時間割変更で対応した。授業時数については、台風等に伴う臨時休業・休日・学校行事などによって、授業がカットになることがあったが、円滑な授業の実施は概ね達成できた。 ・今年度から芸術の授業において設備等の理由で、生徒が学舎間を移動することになった。 ・11月の教育週間に合わせて授業公開週間を設定し、学舎や教科を越えた授業参観ができるようになった。
		学校行事の円滑な実施運営	・学舎ごとの行事も含めて、行事の業務内容の理解を深め、学舎間で連携して効率的に業務を遂行する。	・合同行事だけでなくそれぞれの学舎単独行事も会議等で情報を共有し、緊密に連絡を取って、お互いに協力できる体制をつくる。 ・合同運営委員会、合同職員会議を月1回以上実施する。	A	・合同運営委員会、合同職員会議において、合同行事だけでなくそれぞれの学舎単独行事に関する資料を提示し、お互いの情報について共通理解を図ることができた。 ・合同運営委員会、合同職員会議を月1回以上実施することができた。
		部活動の円滑な実施運営	・3校の行事を考慮し、働き方改革を踏まえ、部活動に係る活動方針にのっとり、休養日の設定等を行う。	・3校いずれかの学校で検定試験や教科指導等が行われる土、日を休養日に設定するなど、3校の行事に配慮して活動する。	A	・3校の行事を考慮しながら、休養日の設定を行い、部活動の円滑な実施運営ができていた。
		校務分掌等の円滑な実施運営	・校務分掌間での連絡調整を綿密に行う。	・週に1回程度は分掌主任、担当係同士で連絡を取り合い、情報の提供と共通理解を図る。	B	・校務分掌間での連絡調整を計画的に行うことができ、情報共有や共通理解に努めることができた。 ・校務分掌によっては連携や調整が難しい部分もあった。
		校舎間移動の円滑な実施運営	・学舎間の移動時間を20分確保し、移動の際の交通安全に十分注意する。	・時間割の配慮を含め、移動の際は複数の職員を配置し、交通安全指導を実施する。また、時間に余裕を持たせた計画を立てる。	A	・時間的な余裕もあり、安全に移動し、始業式、終業式、集会、講演会など時間通りに実施することができた。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○安全教育	防災教育の推進	・防災に関する意識の向上を図る。 ・専門家等と連携した防災教育の充実を図る。	・被災地視察研修を実施し、学校祭時や地元小学校等で視察研修報告を行う。 ・専門家を招聘し、防災に関する講演会と地震津波、風水害を中心とした避難訓練を実施する。	A	・「学校安全総合支援事業」で、宮城県への被災地訪問学習と報告会、学校安全アドバイザーを招聘しての避難訓練や講演、また、近隣小学校の避難訓練の補助など、本校及び地域の防災に関する意識の向上や防災教育の充実にも努めた。 ・「自分は、本校の教育活動を通して、防災に関する意識を高めることができた」の質問に「よく当てはまる」「やや当てはまる」を回答した生徒は89%であった。
	●健康・体づくり	望ましい食習慣と基本的な生活習慣の確立の育成	・朝食の喫食率を90%以上にする。 ・生徒会役員・クラス保健委員を中心に、「健康」に関心をもち、自主的な活動ができる生徒が増えるよう体制を整える。	・保健だより等で、朝食の大切さを周知する。 ・生徒会役員・クラス保健委員の興味関心が高い「食」について掲示物を作成し、生徒へ周知する。 ・生活アンケートを実施する。	A	・朝食アンケートの結果、喫食率は「食べるが多い」を合わせると91%で、目標の90%を達成できた。 ・クラス保健委員の活動を自主的に実施し、水質検査、掲示物の作成など自主的に活動ができた。

4 本年度のまとめ・次年度の取組
生徒一人一人の進路保障については、就職・進学とも合格率100%達成することができた。早い時期からの生徒の進路意識の醸成を図り、基礎学力の向上及び専門的な知識と技術の定着に向けて取り組んだ事により多くの生徒が目標を達成することができた。さらに知識の向上を図るとともに、時事問題に関する意識喚起につなげていきたい。学校再編に伴い校舎制による円滑な学校運営の実施を行ったが、各合同行事が計画どおり実施できた。地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトについて、地域の方から講演をいただき地域の課題に向けて検討することができた。本校が地域の関係機関と連携することで専門教育やキャリア教育を推進し地域社会の活性化に貢献できる教育活動を実践していく。業務改善・教職員の働き方改革の推進は不十分であった。さらに教職員の意識改革が重要課題である。

●は共通評価項目、○は独自評価項目